



Title	はじめに 哲学論叢 第16号
Author(s)	里見, 軍之
Citation	哲学論叢. 1985, 16, p. none
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/66827">https://doi.org/10.18910/66827</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## はじめに

高橋昭二教授は十ヶ月の御闘病のあと、昭和五十九年二月十九日、大阪大学医学部附属病院にて御逝去されました。享年五十七歳。まことに、生死事大、無常迅速というほかありません。

高橋先生は昭和二十六年、大阪大学文学部に助手として赴任されて以来、實に三十三年の長きに亘って、哲学哲学史研究室のために身命を措しまず尽力されました。この間、故伊達四郎教授の衣鉢を繼がれ、ドイツ観念論、就中、弁証法の研究に卓越した業績を挙げられ、またこれによつて、研究室に不拔の伝統を築いて下さいました。さらに、真摯にして峻厳無比の研究姿勢によつて自ら示範されたのみならず、寧日なき、委曲を尽した指導によつて後進の育成を果されました。だがそれにもまして、先生の聲咳に接する者が等しく感銘を与えられたことは、事にあたつての凜然とした氣骨と、ひとの疝氣を見過さず、泥濘に膝を没するのも厭わざ尽瘁される姿とであります。それはおそらく、先生が数多、無形の創痍を負われたことをも物語つてゐるでしょう。

われわれ研究室員は、この「故高橋昭二教授追悼号」をもつて、先生の遺績を讃え、遺徳を偲びつつ、衷心より敬意と哀惜の微意を表したいと思います。

なお、高橋家御遺族より過分の御寄附を賜わり、大阪大学文学部教授会はこれを哲学哲学史第一講座の研究費に

資すべきことを決定されました。ここに、高橋家御遺族並びに文学部教授会に対し、厚く御礼申し上げます。

また、御多用のなか、本号刊行に御協力下さいました関係各位にも心から感謝申し上げます。

昭和六十年十一月一日

大阪大学文学部哲学哲学史第一講座

里 見 軍 之